



5月号

第一七三回  
ジカウイルスに  
感染した9人の  
妊婦の経過

2016年1月19日、CDCはジカウイルス流行地域に旅行し、ジカウイルス感染症に一致した症状のみられる妊婦にはジカウイルス検査をするように推奨した。このガイドラインは2月5日に改訂および拡大され、**症状の有無にかかわらず、ジカウイルスに曝露したすべての妊婦にジカウイルス検査を勧めることとなった。**さらに、CDCは「米国の妊婦旅行者のジカウイルス感染」[\[http://www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/wr/pdfs/mm6508e1er.pdf\]](http://www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/wr/pdfs/mm6508e1er.pdf)にて、ジカウイルス感染が確認された9人の妊婦についての情報を提示しているので解説する。

**【感染と妊娠時期と症状】**9人全員に臨床症状がみられた。ジカウイルス感染症で最もよく観察される4症状（発熱、発疹、結膜炎、関節痛）のうち少なくとも2症状がみられた。入院や死亡はなかった。

**第一トリメスター（妊娠初期）に症状がみられた6人の妊婦では、妊娠早期の自然流産が2件、人工中絶が2件、小頭症合併児の出産が1件、妊娠継続中が1件である。**自然流産2件ではジカウイルスRNAが検体から検出されたが、ジカウイルスが流産を引き起こしたかどうかは不明である。第一トリメスターでの流産は普通に見られることであり、実際、全妊娠の約9〜20%で自然流産が発生している。そして、その頻度は高齢になるに従って増加する。


**第二トリメスター（妊娠中期）に症状がみられた2人では、健康児出産が1件、妊娠継続中が1件であり、第三トリメスター（妊娠後期）に症状がみられた1人は健康児を出産している。**

**【症例A】**2016年1月、30歳代の妊婦が妊娠6〜7週ごろに発熱、発疹、関節痛、筋肉痛、倦怠感を経験した。彼女は妊娠5週ごろに流行地域に旅行した。血清学的検査にて最近のジカウイルス感染が確定された。妊娠8週で自然流産し、**【症例B】**2016年1月、30歳代の妊婦がジカウイルス検査を受けた。彼女は妊娠11〜12週ごろに流行地域に旅行した。帰国1日後に、発熱、眼痛、筋肉痛を経験し、その翌日に発疹がみられた。血清学的検査にて最近のジカウイルス感染が確認された。妊娠20週の胎児超音波検査にて脳梁欠損、脳室拡大、膿萎縮がみられ、MRIでは重症の脳萎縮が示された。羊水穿刺が実施され、ジカウイルスRNAがRT-PCRにて検出された。妊婦は人工中絶を選択した。

**プロフィール**

やの・くにお  
浜松医療センター  
副院長 兼  
感染症内科長  
「ねころんで読める  
CDCガイドライン  
(メディカ出版)」  
シリーズ等、CDC  
関連の編・訳書多数。

●今月の矢野編集長  
先日、学会のランチョンセミナーで用いたスライドデータがほしいと依頼された。うれしかった！私のスライドはつねに差し上げます！



**【症例C】**2015年末、30歳代の女性が妊娠39週で出産した。出生時の幼児の頭囲は27cmであり、重症小頭症であった。出産後の疫学調査によって、女性は妊娠12週までブラジルに滞在していたことが判明した。彼女は妊娠7〜8週ごろに発熱、発疹、関節痛、頭痛を経験しており、血清学的検査にてジカウイルス感染が確認された。また、胎盤の分子学的および病理学的評価にて、ジカウイルスRNAが確認された。幼児には筋緊張亢進、嚔下困難、痙攣がみられ、CTにて脳室周囲に多発散在性の石灰化がみられた。眼底検査では青白い視神経および軽度の黄斑脈絡網膜炎がみられた。聴力は正常であった。幼児は胃瘻造設して栄養管を装着し、退院した。

**【症例D】**30歳代の妊婦が妊娠15週ごろに流行地域に旅行した。彼女は旅行の終わりがごろ（妊娠17〜18週ごろ）に発熱、発疹、関節痛、頭痛を経験した。血清検査にてジカウイルス感染が確認された。妊娠40週で正期出産し、頭囲34.5cmの健康児を出産した。